

2017/04/13(木)14:32

科目番号	授業科目	英語科目名	単位
25875	音声情報科学	Speech and Auditory Information Science	2.0
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員
2017年度 前期	木曜5限	講義・実習	今野 英明
科目区分	<p>専攻科目 (国際協働グループ) 異なる国や民族・地域・文化・社会をつなぐ国際協働の現場において必要となる、グローバルな実践的課題解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(地域政策グループ) 地方行政や「新しい公共」を担うNPO/NGO等諸集団や企業などとの多様なネットワークを構築する能力と、地域の課題解決に取り組む実行力を身につけることを目的とする。</p> <p>(地域環境科学グループ) 地域の環境問題解決のための科学・技術の役割を理解して、その方法論と技術を身につけ、さらに、新たな知識・技能を主体的に学び続けようとする態度、探究力、批判的な思考力などを身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	音声情報をコンピュータで処理する仕組みや意義、および人間の聴覚が行う音に対する処理について講義する。また、音を聴く・作る・処理することをコンピュータを使った実習で体験する。		
対応するディプロマ・ポリシー			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. デジタル音声情報処理とはどのようなものかを知る。</li> <li>2. 聴覚末梢系における音の情報処理について理解する。</li> <li>3. 音声合成や音声分析・認識の基礎的手法を理解する。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声情報処理概説</li> <li>2. 音と聴こえ</li> <li>3. 音声情報処理の基礎</li> <li>4. 音声の生成過程とそのモデル</li> <li>5. 聴覚末梢系の機能と聴覚の周波数選択性</li> <li>6. 音声分析</li> <li>7. 音声認識</li> </ol> <p>上記と実際の授業における順序とは異なることがある。</p>		
成績評価	実習の実施状況(30-40%)と学期末試験(60-70%)で評価する。		
教職チェックリスト			
テキスト	テキストは指定しない。講義資料を用いる。		
参考文献	<p>日本音響学会 編, 音響学入門ペディア, コロナ社 (2017)</p> <p>日本音響学会 編, 音響キーワードブック, コロナ社 (2016)</p> <p>広瀬啓吉, 音声・言語処理, コロナ社 (2015).</p> <p>平原達也 他, 音と人間, コロナ社 (2013).</p> <p>中川聖一 編著, 音声言語処理と自然言語処理, (2013).</p> <p>板橋秀一 編, 音声工学, 森北出版 (2005).</p> <p>古井 貞熙, 音声情報処理, 森北出版 (1998).</p> <p>福島邦彦 他, 視聴覚情報処理, 森北出版 (2001)</p>		
オフィス・アワー	月曜日・5時限・研究室		
関連する授業科目	情報機器の操作, コンピュータプログラミングI, 情報科学演習		
備考(履修上の注意等)	この授業のホームページは <a href="http://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/db/768/">http://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/db/768/</a> である。 USB メモリを持参のこと。		